

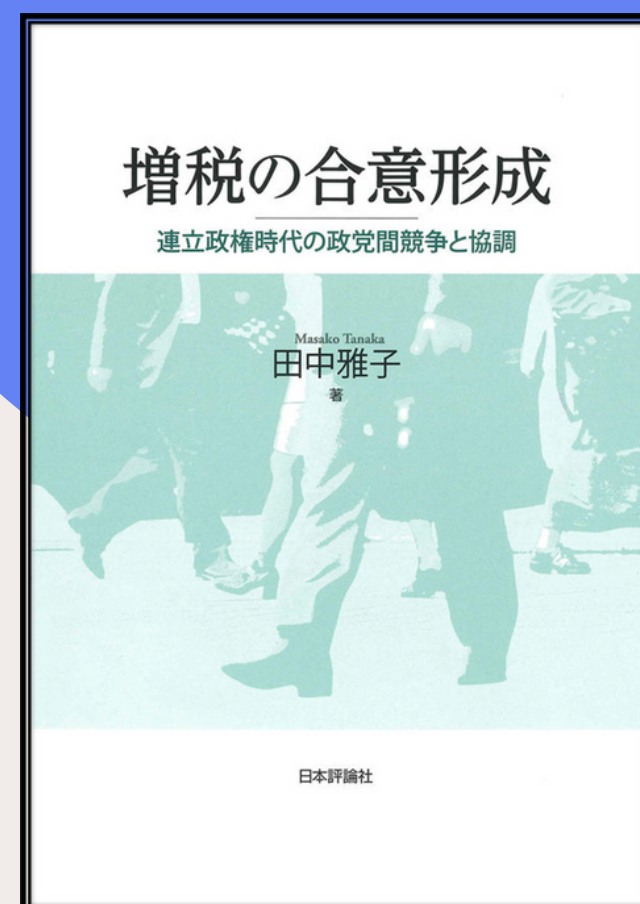
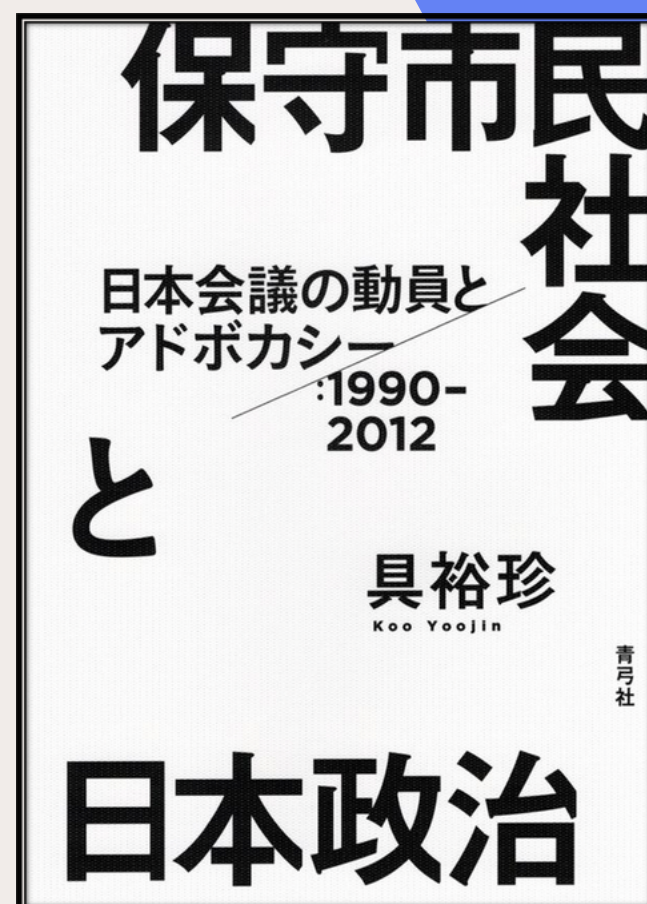
相関社会科学研究会

具裕珍氏『保守市民社会と日本政治』と田中雅子氏『増税の合意形成』を読む



<https://forms.gle/xXPtZ7kqyXJfBLc37>

こちらより、登録をお願いします。
前日にZoomリンクをお送りします。



日時：2022年5月13日（金） 15:00～17:00

この度、相関社会科学コースで博士号を取得された具裕珍氏と田中雅子氏が相次いで御著書を刊行されました。これを記念してお二人の御著書の合同書評会を開催したいと思います。Zoomでのオンライン開催とします。皆さま奮って御参加いただくと幸いです。参加希望者はQR CodeまたはURLにより、5月10日（火）までに御登録ください。

第1部 具裕珍氏『保守市民社会と日本政治—日本会議の動員とアドボカシー：1990—2012』（青弓社、2022年）を読む

書評者：石垣千秋氏（山梨県立大学人間福祉学部准教授）

著者リプライ：具裕珍氏（本学国際社会科学専攻学術研究員）

※具氏の御著書について

日本政治の右傾化が指摘されている中、本書は最大の保守団体である日本会議の活動を社会科学的に分析しています。著者独自のイベントデータに基づき、日本会議の動員が政治的機会・脅威という政治的環境に影響されていることと、日本会議が保守政治家の議員連盟を活用してアドボカシー活動を展開していることを明らかにしています。

第2部 田中雅子氏『増税の合意形成—連立政権時代の政党間競争と協調』（日本評論社、2022年）を読む

書評者：木寺元氏（明治大学政治経済学部教授）

著者リプライ：田中雅子氏（本学国際社会科学専攻特任助教）

※田中氏の御著書について

本書は、民主主義体制下で有権者に反発を受けやすい政策がいかんにして成立に至るのかという問題意識に基づき、消費税増税を題材として、不人気政策が成立する条件を探っています。自民党単独政権期、1990年代以降の連立政権期における税制改革を比較分析し、政権構造、特に政党間競争と協調のあり方が重要であることを指摘しています。

【司会】内山 融（本学国際社会科学専攻教授）